

亀岡市における WHO「セーフコミュニティ」 の取り組み

地域福祉推進における「安全」をキーワード
とした協働の地域づくり活動の意義

報告者 白石 陽子
マチュールライフ研究所

報告の流れ

0. 研究の目的
1. セーフコミュニティ(SC)とは
2. セーフコミュニティと地域福祉
3. 日本におけるSC活動の事例
4. SC活動による変化(分析)
5. 考 察

2

研究の目的

- ・ 地域福祉との共通点が多いとおもわれるWHOが推進する「セーフコミュニティ」活動が地域福祉推進に果たす役割を検討

3

I. 「セーフコミュニティ(SC)」とは

WHO Collaborating Center on Community Safety Promotion (地域CSP協働センター)

外傷や事故など健康の阻害要因を
「コミュニティレベル」で予防

地域住民の
主体的な参加

だれもが安心して生活できる
安全なまちづくりへの取り組み

世界で130のコミュニティがSCとして認証

4

I. SCとは② SCの6つの指標

連携の仕組み

1. 分野の垣根を越えた協働による推進組織の設置
2. 全ての年齢、性別、環境、状況をカバーする長期的、継続的なプログラムの実施
3. ハイリスクグループと環境に着目し、弱者グループの安全性を高めるプログラムがある
4. 外傷の頻度と原因を記録するプログラムがある
5. プログラム、プロセス、実践の効果をアセスメントする評価基準がある

地域の実情にあった継続的なプログラム

評価の仕組み

プロセス重視 国内および国際的なSCネットワークへ継続的に参加している

5

I. SCとは③ SC活動のイメージ

関連アクターによる垣根を越えた連携

全ての住民・環境・状況が取組み対象

現状と成果を科学的な視点から評価

保健 NPO 行政 福祉

企業 教育 学校

子ども 成年 高齢者

保健所 医療 病院 交通 警察 ボランティア 環境

家庭 交通 学校・職場 余暇

現状把握

取組評価

地域の実情に合ったプログラムの企画・実践

6

I. SCとは④ SC活動の対象

		子ども (0-14)	青年 (15-24)	成人 (25-64)	高齢者 (65以上)
環境	家庭	風呂での溺水、やけど	やけど	火事、転倒	階段からの転倒
	交通	登下校の事故	自転車事故、通学中の事故	バイク・自動車事故	歩行中の転倒
	学校	学校での事故やケガ	学校での事故やケガ		
	職場		バイト先の事故	職場での事故	作業中のケガ
	余暇・スポーツ	公園でのケガ、プールの溺水	運動中のケガ	レジャーの事故	レジャーの事故
自殺		いじめ			
暴力(DV含む)		児童虐待	DV		
その他		自然災害、火災、台			

地域の優先課題を把握

↓

実情にみあった取り組み

7

II. セーフコミュニティと地域福祉

	地域福祉	セーフコミュニティ
領域	福祉	安心・安全の向上
目標	全ての住民が安心して幸せに暮らす	
対象規模	市町村、地域コミュニティ	
対象者	地域に住むすべての住民	
推進方法	・行政、地域住民、NPOや各種組織の連携 ・住民の取り組みの主体者としての関与	

地域福祉

安全・安心

8

Ⅲ.日本におけるSC活動 ～事例～

京都府 亀岡市

- 人口:約10万人 (府内3位)
- 地理:京都市に隣接
- 2008年3月にSCに認証される ⇒日本初
- その他 十和田市、厚木市...



9

1. 亀岡市の安全に関する状況と施策

都市に近い

- 京都、大阪へのアクセスが良い
- ⇒進むベッドタウン化
- ⇒多い交通量

豊かな自然

- 保津川、山・・・etc.
- ⇒自然災害

↓

安全は最大の福祉

←

京都府によるSC推奨

- ①安全の向上
- ②医療財政負担軽減
- ③地域コミュニティの再生

↓

「セーフコミュニティ」への取り組み

10

2. 亀岡市のSC活動推進の流れ

①周知・啓発活動

- シンポジウム
- アンケート調査
- 広報紙・メディア活用

②6指標に基づく活動


- 推進体制の構築
- 課題、社会資源の把握
- 国内外の情報交流

↓

③パイロット地域 (篠町)

↓

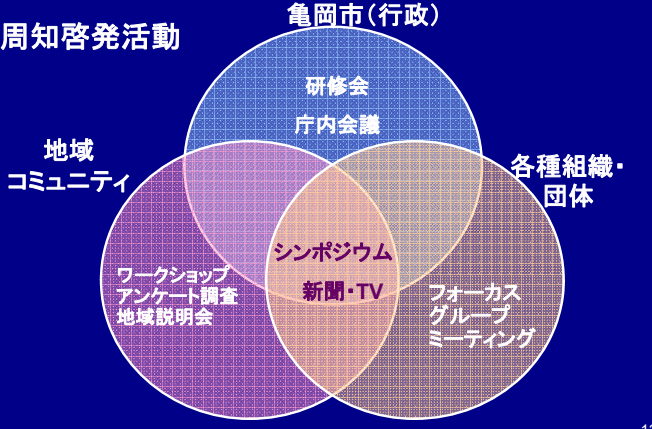
市内の他地区への展開



11

3. SC活動の展開①

周知啓発活動



亀岡市(行政)

地域コミュニティ

各種組織・団体

研修会
庁内会議

ワークショップ
アンケート調査
地域説明会

シンポジウム
新聞・TV

フォーカスグループ
ミーティング

12

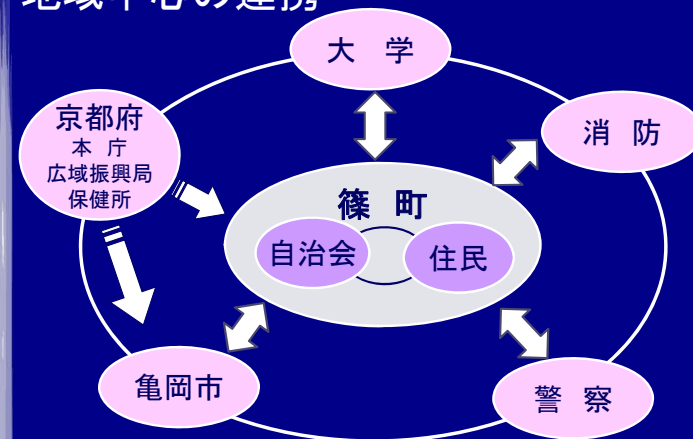
3. SC活動の展開②

6指標に基づく活動

- ◆分野の垣根を越えた推進組織の設置
→行政、警察、消防、病院、住民組織……
- ◆地域の課題、社会資源の把握
→亀岡市における取り組みの優先順位
- ◆取り組みを評価するための仕組み
→外傷サーベイランス調査の実施
→各種データの収集(警察、消防、保健…)

13

地域中心の連携



14

3. SC活動の展開③ 篠町の取組

ワークショップの開催

- 篠町(人口約18,000人)→自治会が中心となる
- 2時間×4回
- 住民、組織・団体など幅広く25人前後を予定
→当日は、60-70人が参加



15

①住民が地域について考える
⇒地域の課題を把握し、目標を設定
例)交通事故、自然災害、高齢者・子どもの安全
⇒社会資源(サービス、活動、施設など)を共有する

②目標達成のために何が必要かを考える
⇒安全向上の方策について考える
例)暗い夜道の安全確保、高齢者・子どもの見守り

③自分たちで何をすべきか、できるかを考える
例) 門灯・玄関灯の点灯、見守りネットワーク、ふれあいマップの展開

目標達成にむけた仕組みづくり(アクションプラン)

16

篠町のアクションプラン(抜粋)

- 子どもの見守り
 - 登下校見守り+水曜日出迎えデー
- 転倒予防体操の普及支援
 - 実施機会の提供
 - 施設・道具の確保
- ふれあいマップの普及 → **90%達成**
- ふれあいの創出
 - 人とのつながり
 - ⇒ 安心感

② 「篠町ふれあいマップ」を全区で完成する)

17

IV. SC活動による変化

亀岡市(篠町)でみられた変化

- ・ 住民の主体者としての意識の高まり
 - 住民による自主的な活動の仕組みの形成
- ・ 地域を中心とした連携体制の形成
 - 亀岡市、京都府、保健所、大学などの支援
- ・ 多様なアクターのネットワークの形成
 - 情報の共有 ⇒ 統括的な現状把握 ⇒ 協働

18

IV SC活動による変化②

京都府が提示した3つのメリット

- 医療等費用の軽減
- 地域の安全の向上
- 地域コミュニティ再生

客観的安全

主観的安全

データの蓄積が必要

19

V. 考察

- ◆ 共通する目標
 - 「誰もが安心して幸せに暮らせる」
- ◆ 住民による主体的な取り組みの仕組
- ◆ 地域を中心とした協働ネットワークの形成

セーフコミュニティ

地域福祉の推進

20

課題

- ・ 6つの指標の特徴である「柔軟性」は、活動を具体化させるにあたって「壁」となる可能性を含んでいる
⇒具体化は、地域の「力」に頼らざるをえない

<「安全」のもつ意味>

存在にかかわる最も基本的な欲求

↓
だれもの関心であり、その推進は大切だと認識

↓
多くのアクターがかかわりやすい

21

ご清聴ありがとうございました

白石 陽子

yokomature@cyberoz.net

22